

平成28年度病院医学教育研究助成成果報告書

報告年月日：平成29年3月21日

研究・研修課題名	認定臨床染色体遺伝子検査師資格の取得
研究・研修組織名（所属）	検査部
研究・研修責任者名（所属）	松田親史（検査部）
共同研究・研修者名（所属）	

目的及び方法、成果の内容

①目的（800字程度）

近年、当院では遺伝子検査が行える体制が整い遺伝子検査を日常業務検査として実施している。しかしながら経験が浅いことからスタッフの教育が各個人に任されておりどのレベルまで到達したか分からない面があった。日本臨床検査技師会では認定臨床染色体遺伝子検査師を一定のレベルとして位置づけ認定制度を設けている。

当院スタッフの第三者評価を目的として認定臨床染色体遺伝子検査師資格の取得を行う。

②方法（800字程度）

平成28年12月11日（日）に東京で行われる試験に合格すれば資格取得となる。
試験内容は筆記試験、技術試験にわかれている。

概要

9:40～10:10 受付

10:10～10:30 オリエンテーション

10:30～12:30 実技試験

12:30～13:30 昼食・休憩

13:30～15:30 筆記試験

会場 日本臨床検査技師会館

③成果（データ等の図表を入れて2000字程度）

第10回認定臨床染色体遺伝子検査師試験を受験したが不合格であった。

現在、腫瘍や病原微生物、遺伝子病などへの遺伝子検査が先進医療や幾つかの保険診療にて実施されており遺伝子検査の重要性は医療現場においても認知されつつある。しかしながら遺伝子検査は特異度・感度ともに高く、診断の決め手になる一方、検査分野においてその専門家が少ないのが現状である。認定臨床染色体遺伝子検査師とは、日本遺伝子染色体検査学会、日本臨床検査技師学会我中心となって前述の問題点を補うべく高度な専門知識および技術に対応できる遺伝子分析科学技術者の育成と遺伝子関連検査の発展・普及を促進することを目的とし、遺伝子分析法の技術水準の向上とその標準化を目的とする認定試験である。今回、申請者は本資格を取得出来なかったが、遺伝子検査を独学で学び実施してきた者としては遺伝子検査を行う上での基礎知識、技術が学べたこと、また自身

の力量、知識不足を思い知らされたことは大変貴重な経験が出来たと考える。試験では経験が必要な実技試験は合格点であったが、筆記試験で不合格となったと考えられる。筆記試験では、遺伝子学の基礎的な内容（歴史を含む）から臨床遺伝学の範囲まで、細かい内容を問う問題が多く、ポイントを絞り込めなかったことが敗因と考えている。

今回受験するによって、検査を行う上で知っておかなければいけない基礎的知識、遺伝学のポイントが理解できたので次回は必ずや合格したいと意気込んでいる。また、過程で得た知識と技術により、当院での遺伝子診療の発展につなげたとともに人材育成にも精力的に励みたいと考えている。